# 令和８年度病害虫発生予察情報
# 特殊報　第２号

令和８年 11 月 13 日
青森県病害虫防除所

## Cucurbit aphid-borne yellows virus（CABYV）による メロン病害の発生について

１　病原ウイルス　Cucurbit aphid-borne yellows virus（CABYV）

２　作 物 名　　メロン

３　発生経過

（１）令和８年８月に県内のメロン栽培ほ場において、メロンの葉に退緑及び黄化症状が確認された。症状から県内未発生であるウイルス病が疑われた。

（２）このため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫部門に PCR 法による分析・鑑定を依頼したところ、Cucurbit aphid-borne yellows virus（CABYV）が確認され、同ウィルスによる感染が確認された。本県における本病害の発生確認は初めてである。

（３）本病害は国内では令和６年に京都府で初めて発生が確認され、これまでに滋賀県、福島県など８府県でキュウリ及びメロンでの発生が確認されている（令和８年９月現在）。

４　病徴

（１）本ウイルスに感染すると葉に退緑や黄化症状が発生し、症状が進むと株全体の葉が黄化する。本病害の病徴は、生理障害やウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）等のメロンに黄化症状を引き起こす他のウイルスの感染による病徴とよく似ていて判別は難しい。

（２）本ウイルスに感染した場合、着果不良により減収することが海外で報告されている

５　伝染方法

（１）本ウイルスは、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ等）によって媒介される。

（２）アブラムシ類が罹病植物を吸汁することによりウイルスを獲得し、死亡するまで伝搬能力を有するが、経卵伝染はしないとされている。汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染は確認されていない。

６　寄主植物

国内で感染が確認されている作物はキュウリ、メロンである。

７　防除対策

ウイルスを媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。

（１）育苗時からアブラムシ類を防除し、ほ場に持ち込まないよう注意する。

（２）育苗施設では、育苗開始前に前作の残渣及び雑草を撤去し、育苗時にはアブラムシ類の防除を行う。

（３）施設栽培では、施設開口部に 0.8㎜ 目合い以下の防虫ネットを展張し、施設内へのアブラムシ類の侵入を防ぐ。露地栽培では、シルバーマルチやシルバーテープの利用により、アブラムシ類の飛来を抑制する。

（４）ほ場周辺の雑草は、アブラムシ類の発生源となるため、除草を徹底する。

（５）薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認する。アブラムシ類の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、薬剤は必ず異なる系統をローテーション散布する。ミツバチや天敵昆虫を利用している場合は、影響日数に注意して薬剤を選定する。
（６）発病株は直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出して処分するか、土中に深く埋め込む等適切に処分する。


写真１　メロンの葉の黄化症状


写真２　ワタアブラムシ

【メロンのアブラムシ類に登録のある主な薬剤（令和８年11月４日現在)】

| 農薬の名称 | IRACコード | 有効成分 | 希釈倍数<br>使用方法 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 総使用回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ベリマークSC | 28 | シアントラニリプロール | 灌注:400株当り10～20L(1株当り25～50ml) | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 1回 |
| | | | 株元灌注:400株当り20～200L(1株当り50～500ml) | 定植直後 | 1回 | |
| ジノテフラン粒剤＊ | 4A | ジノテフラン | 株元散布:1g/株 | 育苗期 | 1回 | 3回以内(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内) |
| | | | 植穴土壌混和:1g/株 | 定植時 | 1回 | |
| ベストガード粒剤 | 4A | ニテンピラム | 株元処理:1g/株 | 育苗期 | 1回 | 4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内) |
| | | | 植穴処理土壌混和:1～2g/株 | 定植時 | 1回 | |
| ベストガード水溶剤 | 4A | ニテンピラム | 1000～2000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | |
| ダントツ粒剤 | 4A | クロチアニジン | 株元処理;1～2g/株 | 育苗期後半 | 1回 | 4回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内) |
| | | | 植穴処理土壌混和:1～2g/株 | 定植時 | 1回 | |
| | | | 株元散布:1～2g/株 | 定植後 但し、収穫前日まで | 3回以内 | |
| ダントツ水溶剤 | 4A | クロチアニジン | 2000～4000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | |
| モスピラン顆粒水溶剤 | 4A | アセタミプリド | 8000倍 | 収穫3日前まで | 3回以内 | 3回以内 |
| オリオン水和剤40 | 1A | アラニカルブ | 1000倍 | 収穫前日まで | 5回以内 | 5回以内 |
| ダイアジノン水和剤34 | 1B | ダイアジノン | 2000倍 | 収穫14日前まで | 4回以内 | 4回以内(粒剤の生育期の処理は3回以内) |
| アグロスリン乳剤 | 3A | シペルメトリン | 1000～2000倍 | 収穫前日まで | 5回以内 | 5回以内 |
| アグロスリン水和剤 | 3A | シペルメトリン | 1000～2000倍 | 収穫前日まで | 5回以内 | |
| アディオン乳剤 | 3A | ペルメトリン | 2000～3000倍 | 収穫前日まで | 5回以内 | 5回以内 |
| ロディー乳剤 | 3A | フェンプロパトリン | 1000～2000倍 | 収穫前日まで | 4回以内 | 4回以内 |
| トレボン乳剤 | 3A | エトフェンプロックス | 1000倍 | 収穫3日前まで | 4回以内 | 4回以内 |
| スカウトフロアブル | 3A | トラロメトリン | 2000倍 | 収穫前日まで | 5回以内 | 5回以内 |
| アーデント水和剤 | 3A | アクリナトリン | 1000倍 | 収穫前日まで | 5回以内 | 5回以内 |
| テルスター水和剤 | 3A | ビフェントリン | 1000倍 | 収穫前日まで | 4回以内 | 4回以内 |
| トランスフォームフロアブル | 4C | スルホキサフロル | 2000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | 3回以内 |
| チェス水和剤 | 9B | ピメトロジン | 2000～3000倍 | 収穫3日前まで | 4回以内 | 4回以内 |
| コルト顆粒水和剤 | 9B | ピリフルキナゾン | 4000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | 3回以内 |
| ウララDF | 29 | フロニカミド | 2000～4000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 | 2回以内 |

＊ ジノテフラン粒剤：スタークル粒剤、アルバリン粒剤

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬情報」　https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
農林水産省「農薬登録情報提供システム」　https://pesticide.maff.go.jp/
FRAC 農業用殺菌剤作用機構分類及び IRAC 農業用殺虫剤作用機構分類の最新版は
クロップライフジャパン（旧農薬工業会）ホームページ（https:// www.croplifejapan.org/activity/mechanism.html）を参照。

当情報は青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」(https://www.nounavi-aomori.jp/）に掲載しています。

【この情報に関する問合せ先】
青森県病害虫防除所
TEL:017-729-1717　FAX:017-729-1900
〒030-0113　青森市第二問屋町 4-11-6
E-mail：byogaichu@pref.aomori.lg.jp